

		医療のコラボレーション教育		開講学科	0000 学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18039	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	医療安全管理学（臨床工学・危機管理学・感染制御学） (Healthcare Safety Management)				
担当教員名	◎伊藤美千代／佐々木美奈子／渡會睦子／橋本迪生 田中健次／遠田光子／菅原浩幸／菅原えりさ／吉田理香				
授業の概要及び到達目標					
<p>工学の進歩とその医療への応用が進み、新しい医療機器が開発され、それらは疾病の診断や治療にはなくてはならない存在になっている。一方、医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められ、感染症（MRSA、HIV、結核等）に対する認識の変容も迫られている。本講義内容は、社会人として求められる知識に加え、医療関係者として医療安全の基本概念を理解し、社会の医療安全ニーズに応えるべき知識を習得し、その実践を考える。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症とそのリスクマネジメントについて説明できる。 ・医療サービスにおける安全とその管理について説明できる。 ・病院での看護における事故のリスクとその対策について説明できる。 ・病院以外の職場における事故のリスクとその対策から安全環境の捉え方を理解できる。 					
準備学習等					
<p>感染とリスクマネジメント：体の仕組みと働きの「免疫系」、感染症を理解する上で微生物学、滅菌・消毒、抗生物質をはじめとするヒトの免疫系に影響をもたらす薬理学の内容を復習しておくとう理解が深まります。</p> <p>職場の安全風土に関しては、公益社団法人大原記念労働科学研究所 HPhttp://www.isl.or.jp/ に、病院を含む多様な職場における安全対策について確認できます。</p>					
成績評価の方法	筆記試験（75%） およびレポート（25%）で総合的に評価する。				
テキスト	指定しない。				
参考図書	授業にて提示する。				

備 考	<p>開講日が不定期的ため、注意してください。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p> <p>下記第 15 回目の授業時に実施するワークシートは、添削後返却しますので、以降の振り返り学修に活用する等よく復習した上で試験に望んでください。</p> <p>講義内容に関する質問がある場合、第 6 回～12 回は授業終了後に受け付けます。それ以外の回は看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。</p>
授 業 計 画	
<p>第 1 回:科目の目的、目標、進め方、医療安全推進の背景、職場の安全風土の捉え方 (伊藤・佐々木・渡會)</p> <p>第 2 回:感染とリスクマネジメント 1; 感染症と病原体、生体防御機能の破綻、感染症の動向 (菅原)</p> <p>第 3 回:感染とリスクマネジメント 2: 感染予防対策の事例 (菅原)</p> <p>第 4 回:感染とリスクマネジメント 3:標準予防策、感染予防対策システム (吉田)</p> <p>第 5 回:感染とリスクマネジメント 4: 感染予防対策の事例 (吉田)</p> <p>第 6 回:医療サービスの特性 (橋本)</p> <p>第 7 回:医療の質と安全、医療安全の原理 (1) (橋本)</p> <p>第 8 回:医療安全の原理 (2)、組織的取り組み (橋本)</p> <p>第 9 回:信頼性・安全性工学から医療をみる (田中)</p> <p>第 10 回:看護現場の医療安全: チーム医療の視点で (遠田)</p> <p>第 11 回:医療安全管理の実際: 事例から学ぶ (菅原)</p> <p>第 12 回:医療安全管理の実際: 事例から学ぶ (菅原)</p> <p>第 13 回:職場における安全管理 1 (伊藤・佐々木・渡會)</p> <p>第 14 回:職場における安全管理 2 (伊藤・佐々木・渡會)</p> <p>第 15 回:職場における安全管理 3 (伊藤・佐々木・渡會)</p>	